

事務局だより

第8回

「みえの農村風景」 写真コンテスト受賞作品

最優秀賞



「収穫の喜び」(明和町) 松本征夫

稲と稲の間から覗かせる子供たちの笑顔、お米の収穫をやり遂げた喜びも冷めやらぬまま、みんなで気持ちを分かち合う。この気持ちはきっと食卓に届くであろう、そんな自然の有難さを感じさせてくれる秀逸な作品である。

優秀賞



「ほら一掘れたよ」(伊勢市) 西 保

芋掘りに熱中する親子ら、母の呼びかけに子は振り返り笑顔をみせる。見つめる先には小さな芋、まるでわが子のように愛らしい。また、視線を落とすと母のような大きな芋。親子の仲むつまじさが伝わる作品である。



「ええじゃないか(出番前)」(伊勢市) 澤田静子

出番前という裏側の一幕に新鮮さを感じる。黒色を基調とすることで、他の色を際立たせている。特に趣のある空間に白い髪・鮮やかな召物を羽織った役者の姿がアクセントとなって作品を演出している。

特別賞

「冬晴れの中で」(伊勢市)
中世古健吾

この作品を見た時、誰もが大根の数に圧倒される。私達が普段食べる農作物は生産農家さんが汗をかき育てた自然の産物である。どんな時代でも生産農家さんへの感謝は忘れてはいけないということが伝わる作品である。



「ナ・ノ・ハ・ナ・バ・タ・ケ〜♪」(鈴鹿市)
名村一義

大きな菜の花に臆することなく、前へ進んでいく園児らの元気な姿がこの作品から伝わってくる。小さな頃は大きかった草花も、やがては自分より小さくなる。自分の背丈ほどある草花に囲まれた記憶は一生の宝物だろう。

「餌を求めて…」(松阪市)
白藤きわ子

長閑な田園風景に一画を捉えた作品。トラクターが刈り取った跡を鳥達がずっと追いかけている情景が浮かぶ。生物と共にゆっくりとした時間を過ごす、そんな自然の良さを感じさせてくれる作品である。



「新米でのもちつき」
(伊賀市)
居附美代子

使い込んだ白と杵、そこに小さな手と大きな手が新米を柔らかな御餅へ変えていく。薄暗い光が差し込む冷たい空間が湯気を放つ御餅をより一層際立たせている。世代を超えた交流の大切さが改めてわかる作品である。

伊勢新聞社賞



「収穫を終えて」(津市) 加藤和弘

見渡す限りの田畑に広がる青空、作品を眺めているとまるで現地にいるような清しい気分になる。一つ一つ綺麗に巻かれた藁が数多く散らばっている様子を芸術性を感じ、収穫の喜びを体現した作品に仕上がっている。